

地球温暖化防止

エコラム ECO-LUMN

Vol.114

環境保全課 ☎ 5100

水源の森植樹祭

日本の年平均気温は長期的に上昇傾向で、100年あたり1・15度の割合で上昇しています。また降水にも変化が現れており、日降水量1mm以上の降水日数は減少傾向にある一方、日降水量が100mm以上の大雨の日数は増加傾向にあり、地球温暖化の影響によるものと懸念されています。

森林は、樹木の生長により地球温暖化の原因である二酸化炭素を吸収固定し、蒸発散作用により自然環境の調節をしています。枯れ枝や枯れ葉は、地表の侵食を防ぎ、根を張り巡らせることで土砂の流出を防ぐ働きがあります。枯れ枝などが生長中に吸収した炭素はすぐに大気中には還らず、ある程度の期間貯蔵できると考えられています。



森林は緑のダムとも呼ばれています。何年にもわたり堆積した葉や枝が厚い腐植層を形成し、土壌がスポンジのような役割を果たします。雨水をたつぷりと蓄えることで河川の流量を一定に保ち、洪水の調整や地下水の緩和をします。また雨水を良質な地下水に浄化する機能も持っています。このような働きのある河川上流域の森林は「水源かん養林」と呼ばれ、清浄で豊かな水源を確保する上で重要なものです。

市では、毎年錦町の羅漢山で小学生と一緒にコナラやヤマグリなどの広葉樹を植える「水源の森植樹祭」を開催しています。今年も10月4日(火)（予備日 10月11日(火)）に開催し、約600本の苗木を植樹する予定です。

ごみ

ちょっと気にして、 もっと気にして!

環境事業課 ☎ 5304
総合支所



▲マイボトル・マイカップのロゴマーク

使っていますか？ マイボトル・マイカップ

リデュース・リユース・リサイクルの3つを総称して「3R」と呼び、循環型社会を実現するために、さまざまな取り組みが行われています。中でも、過剰な生産を抑制したり物の寿命を延ばしたりする「リデュース」と、不用になった製品をそのまま再利用する「リユース」は、製品化された物を再び資源として利用する「リサイクル」より優先して取り組むべきものと位置付けられています。

リデュース・リユースの具体的な例として、職場や学校、外出先でマイボトルやマイカップを使うという取り組みがあります。これは誰もが実践でき、使い捨て飲料容器などのごみを減らすことができます。ボトルやカップは使ったらきれいに洗い、しっかり乾燥させて清潔に保つように気を付けましょう。

■ごみ処理家計簿

減量効果		7月分(前年同月比)
増	処理費用換算	-437万円
減	排出量 (1人1日当たり)	862g(-33g)

処理費用は、処理に要する経費と排出量から単純に計算したもので、実際の金額とは異なります